

都議会議員選挙(7月4日投開票)の立候補予定者7名の皆さまに「羽田新ルート運航に大きな影響を受ける視覚障害者の実情」についてお聞きしました。

私たち「歩行ができない視覚障害者の会」は品川区在住の視覚障害者の有志の集まりです。音を頼りに生活している視覚障害者にとっては、品川区上空を飛来する飛行機の騒音は、安心して歩行できないという生活の根幹にかかわる大きな問題です。視覚障害者の実情とそこご理解、およびそれらに関するご意見を立候補予定者7名にお聞きしました。

短い回答期間にもかかわらず4名の方が回答くださいました。

**質問1** 視覚障害者のこのような危険と不安の歩行状況について、どのようにお考えになりますか？

大いに共感し、理解する⇒白石たみおさん、あべ祐美子さん、筒井ようすけさん、森沢きょうこさん

**◆4名すべてが大いに共感すると回答**

**質問2** 国・国交省は、品川区の視覚障害者のこうした現状をどの程度理解していると思いますか？

必ずしも理解しているとはいえない

⇒白石たみおさん、森沢きょうこさん

わからない

⇒あべ祐美子さん(理解していないのか、知りつつ黙殺しているのか分かりません)

⇒筒井ようすけさん(以前より、私は品川区議会で視覚障害者の現状を国に伝えるよう区に求めており、これを受けて、区は国に伝えたとしているが、それでどの程度理解しているかは不明。)

**質問3** 選挙中、視覚障害者がおかれているこのような現状について、どのように区民に訴えますか？

国・国交省に対して新飛行ルートを一時停止するよう、区民の皆さんに訴える

⇒白石たみおさん、あべ祐美子さん

その他

⇒筒井ようすけさん

(今までの新飛行ルート見直しを求める活動により、国が新ルートの固定化を回避するべく「羽田新経路の固定化回避に係る技術的方策検討会」を立ち上げたので、ここから出される予定の固定化回避策を期待し、恒久的に新ルートが消滅する固定化回避策の早期の実現を国に求める。これに伴い、視覚障害者の問題ある現状は解消されるものと考える。)

⇒森沢きょうこさん

(国は、みなさんのおかれている状況を把握し、より一層の騒音軽減策に取り組むと共に、飛行ルート固定化回避の検討を着実に進めるべきと考えます。)

❖昨年12月25日の品川区議会臨時本会議において、区民投票条例請求に  
当たり視覚障害者の実情を意見陳述しました。(議事録抜粋)

【寺島政博氏】 一般的に情報は7割から8割以上が目から入手すると言われていています。私たち視覚障害者は、その情報を目から得ることはできませんので、ほとんどが耳からの入手と言っても過言ではありません。

視覚障害者が単独で歩行する際、車の音はもちろん、マンホールの下を流れる下水の音、こういうものもポイントになります。また、10メートル先の路地からバイクが出てきた。あ、あそこを曲がればいつもの道だな、こういう判断にもなります。自動販売機の音もそうです。コンビニのチャイムもそうです。子どもたちの声や道端でお話をしているおばちゃんたちの会話もそうです。全てが音を頼りにしています。

それが騒音によって失ってしまいます。これは表だけの問題ではありません。家の中にも同様なことが起きます。会話はもちろん、テレビやラジオの音、電話の声、私たちはパソコンもよく使うんですが、インターネットを検索し閲覧する、メールの送受信で情報を得る、これら全て音声で行っています。騒音による情報の遮断が起きてしまいます。

また、途中で視覚に障害を負った方がいます。こういう方は、障害を負って日が浅いということもありまして、方向感覚の異常といいたましようか、不安定を訴えることがあります。部屋の中にも自分がどこにいるか分からなくなったりすることがあります。そこに騒音が加わりますと、もっと影響は甚大になってしまいます。部屋の壁にぶつかってみたり、家の階段から落ちこちそうになったという事例もあります。

私の家の最寄りの駅、これはJRですと大崎駅です。こんなことがありました。ある日の夕方、外出先から帰宅途中の話です。私の家は大崎駅を背にして一方通行の坂道を上っていくんですが、ちょうどそのとき大崎の後ろのほうから飛行機の音がしてきました。まだ小さかったので、歩みをちょっと遅らせながら歩いています。だんだんと飛行音が接近してきましたので、あ、そろそろちょっとよけようかなと思った瞬間、私の目の前で車のクラクションが鳴りました。私は飛び上がるほどびっくりしました。それ以降、その一件があつてからは、飛行機の音がして、飛行機の音が完全に消えるまで、道路の端に寄ってじっと待っていることにしています。

私たちの仲間が大井町に住んでいる視覚障害者の夫婦がいます。小学校に通っているお子さんが1人います。大井町の駅のすぐそばのマンションなんですけども、「大井町は、通勤・通学、買物にもとても便利で、住みやすい」と言っていました。ところが、最近は引っ越しを考えています。視覚障害者にとって、引っ越しをする、新たな環境のところへ行くというのは、それは相当な勇気とパワーが必要となってしまいます。

この問題というのは、視覚障害者だけのことではありません。視覚以外の障害者、もちろん児童も含めてです。様々な影響が出ていると伺っております。私たち障害者の家族に至っても、不安や心配、さらに多大な介助料なんかも起きてきています。

障害者の数は健常者に比べたら少ないです。ただ、小さい声ですけども、区民の声として、どうか、どうか吸い上げていただければと思います。どうぞよろしくお願い致します。

歩行ができない視覚障害者の会

賛同者 岸田博、五味嘉信、下堂蘭保、庄司恒夫、関根鈴子、中山文夫  
長野一郎、成瀬千夏、西原和子、西原清松、堀利和、丸山武雄